

科研費の合議審査開催形式に係る基本方針（概要）

- ・ 今後の科研費の合議審査はWEB会議形式で実施することを基本とする
- ・ ただし、5年程度経過後に、DX化対応の進捗状況も踏まえ、再点検する

決定に当たっての考え方：

- ・ 議論を経て採否を決定する**科研費審査の本質に大きな影響を与えないこと**
[参考①、参考②]
- ・ WEB会議形式を経験した**審査委員の多くが同形式の審査を望んでいること**
[参考②]
- ・ 日程確保の容易さや移動負担の軽減などから、審査委員の**辞退率の低下や多様性**
(地域・年齢・性別等) **の確保が期待** (理想の審査セットが実現) **できること**
[参考②]
- ・ 同様にWEB会議形式によるリモート審査を導入した**諸外国の配分機関において**
重大な支障を来している事例が見受けられないこと [参考③]

留意事項：

- ・ 今後、合議審査の実施形式を変更する場合は、当該年度当初に決定し周知する
- ・ なお、合議審査に際してヒアリングを行う場合も同様とする

参考①：集合形式とWEB会議形式の審査結果分析

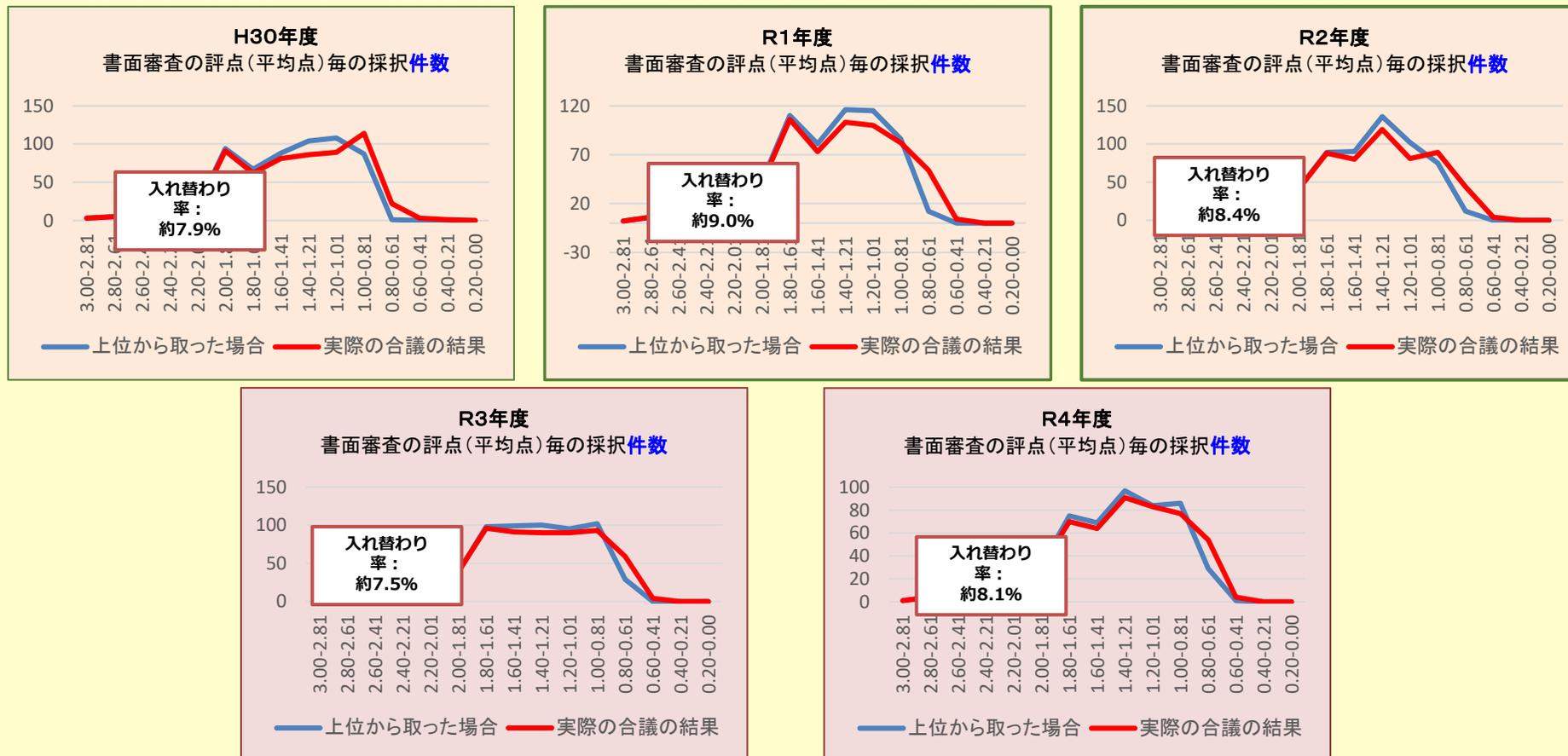
Web会議形式が総合審査に与える影響について（基盤研究（A）における検証）

- 書面審査の評点（平均点）毎に採択課題・不採択課題の割合を集計。
- 仮に書面審査の評点（平均点）の上位から機械的に採択課題を取った場合に比べ、合議審査の結果、書面審査の結果が高い課題で不採択課題が増加し、書面審査の結果が低い課題で不採択課題が減少している。
- 採択結果の「入れ替わり率」は、合議審査を集合形式で実施した平成30年度～令和2年度と、Web会議形式で実施した令和3・4年度でいずれも7.5%～9.0%であり、大きな変化はない。

【検証結果】基盤研究（A） 集合形式：H30～R2年度 Web会議形式：R3～R4年度

※書面審査評点（横軸） 6～8人審査委員の評点の平均点。S：A：B：C＝3点：2点：1点：0点と換算。

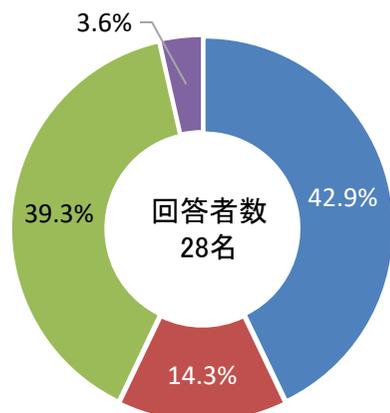
※入れ替わり率＝書面審査上位から機械的に採択課題を取った場合と合議審査の結果を比較して、結果に影響があった件数の割合



参考②：審査委員に対するアンケート結果

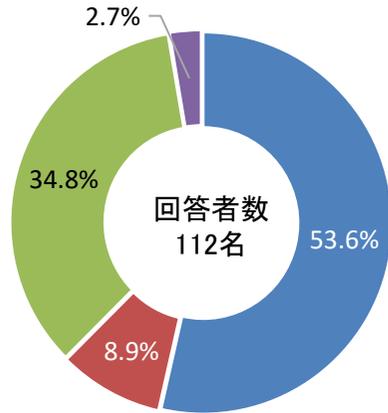
今後希望する合議審査の開催方式(令和3年度審査)

【特別推進研究】



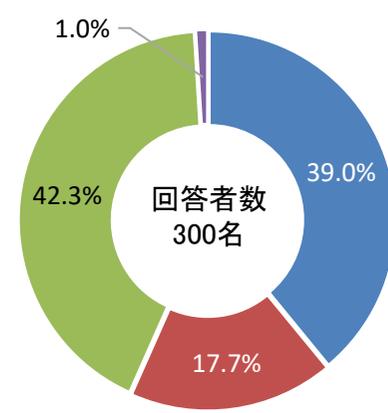
Web会議形式+どちらでも良い: **82.2%**

【基盤研究(S)】



Web会議形式+どちらでも良い: **88.4%**

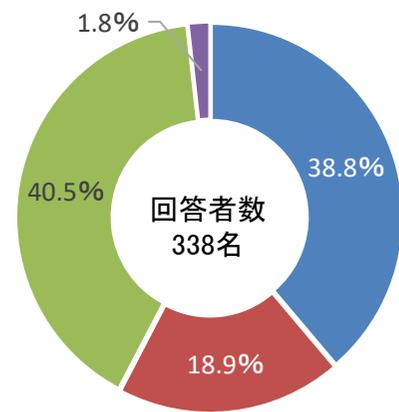
【基盤研究(A)】



Web会議形式+どちらでも良い: **81.3%**

- 1. Web会議形式
- 2. 集合形式
- 3. どちらでも良い
- 4. その他

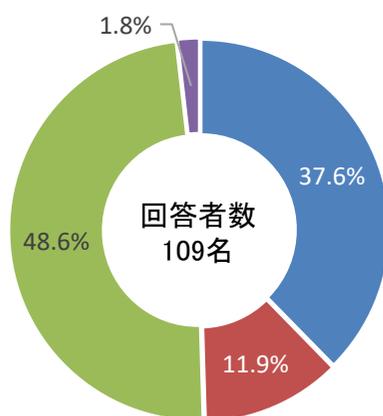
【挑戦的研究】



Web会議形式+どちらでも良い: **79.3%**

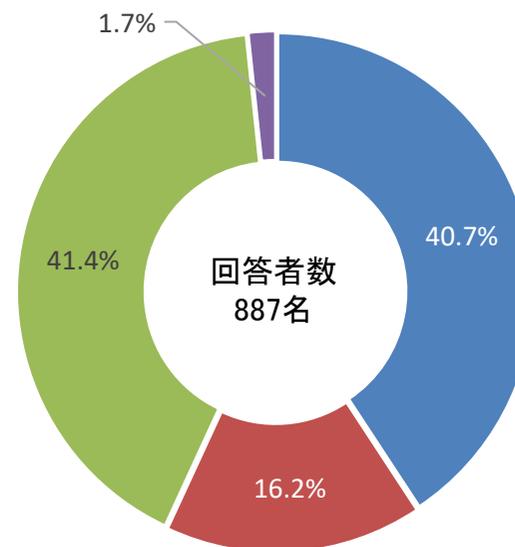
【国際共同研究強化(A)・ 帰国発展研究】

※令和2年度審査



Web会議形式+どちらでも良い: **86.2%**

【6種目合計】

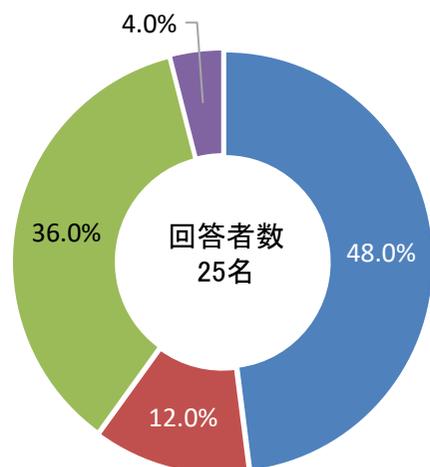


Web会議形式+どちらでも良い: **82.1%**

▶ 多くの種目において「Web会議形式」又は「どちらでも良い」が**8割以上**を占める。

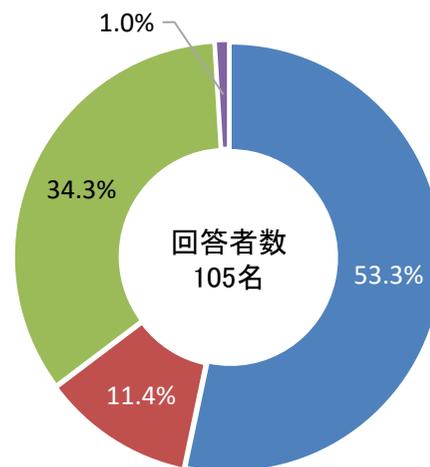
今後希望する合議審査の開催方式(令和4年度審査)

【特別推進研究】



Web会議形式+どちらでも良い: **84.0%**

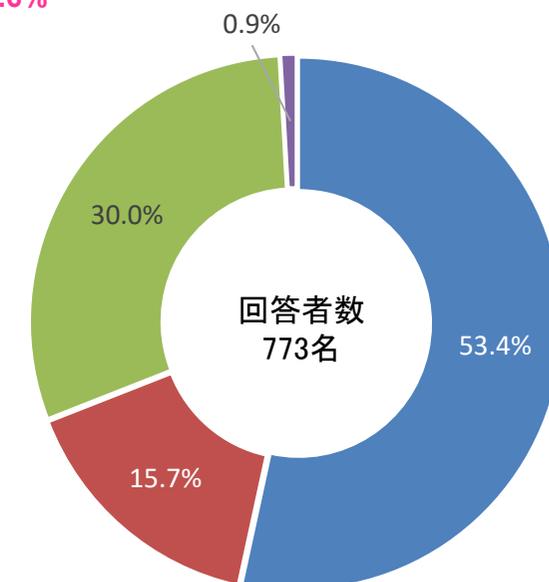
【基盤研究(S)】



Web会議形式+どちらでも良い: **87.6%**

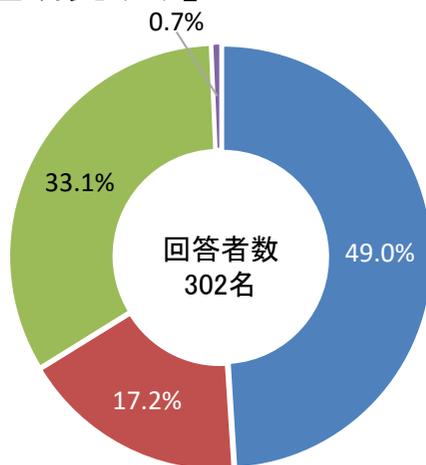
- 1. Web会議形式
- 2. 集合形式
- 3. どちらでも良い
- 4. その他

【4種目合計】



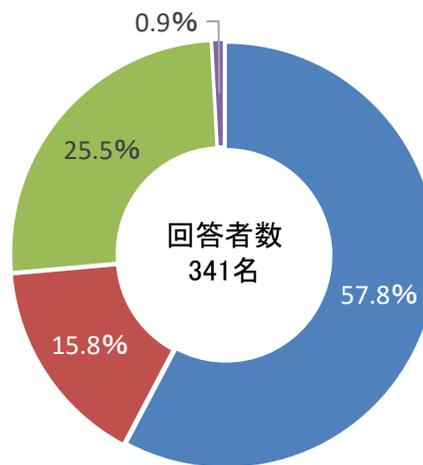
Web会議形式+どちらでも良い: **83.4%**

【基盤研究(A)】



Web会議形式+どちらでも良い: **82.1%**

【挑戦的研究】

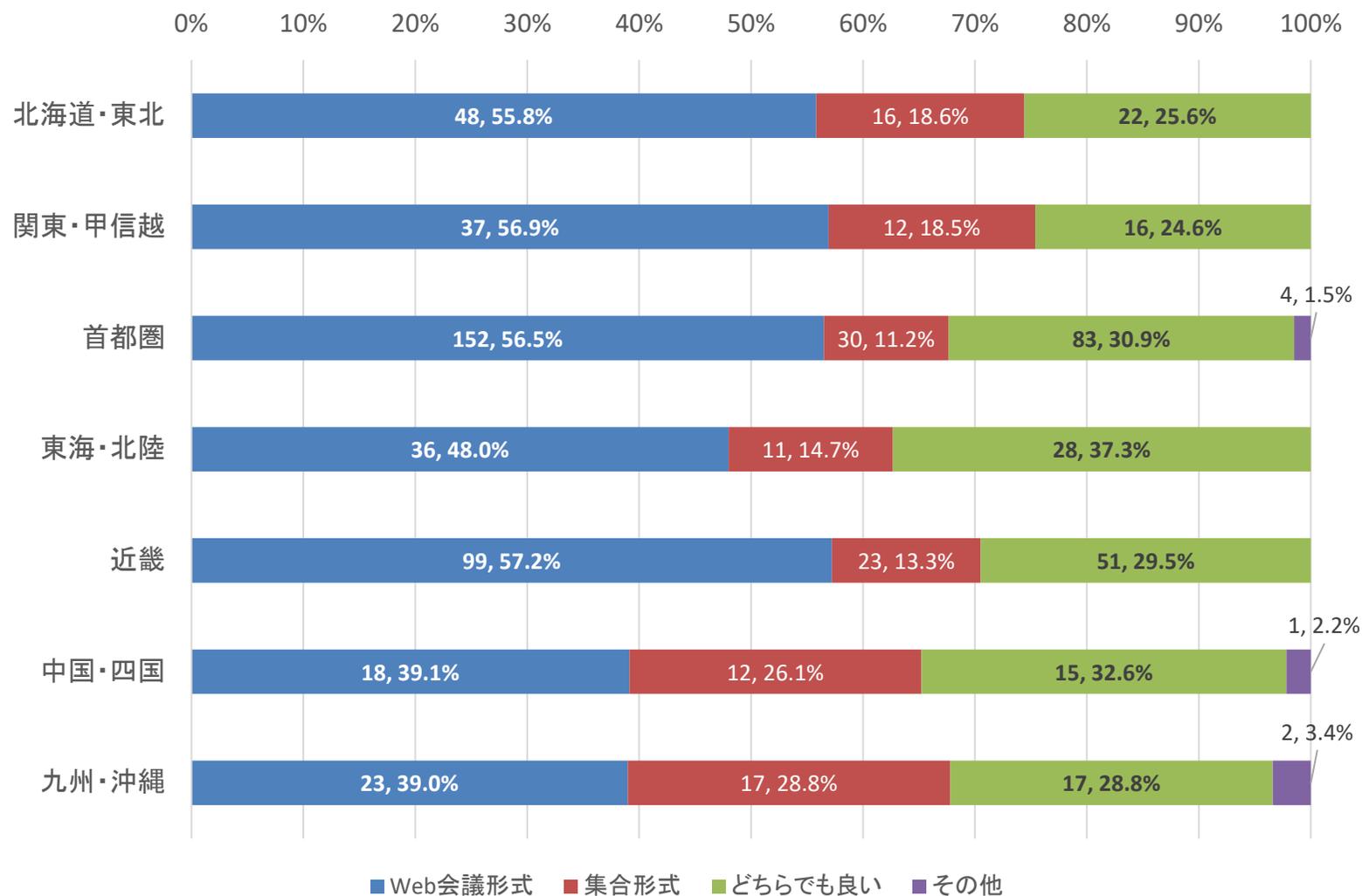


Web会議形式+どちらでも良い: **83.3%**

▶ 令和4年度は「Web会議形式」が令和3年度より増加(40.7%→**53.4%**)

今後希望する合議審査の開催方式(令和4年度審査・地域別)

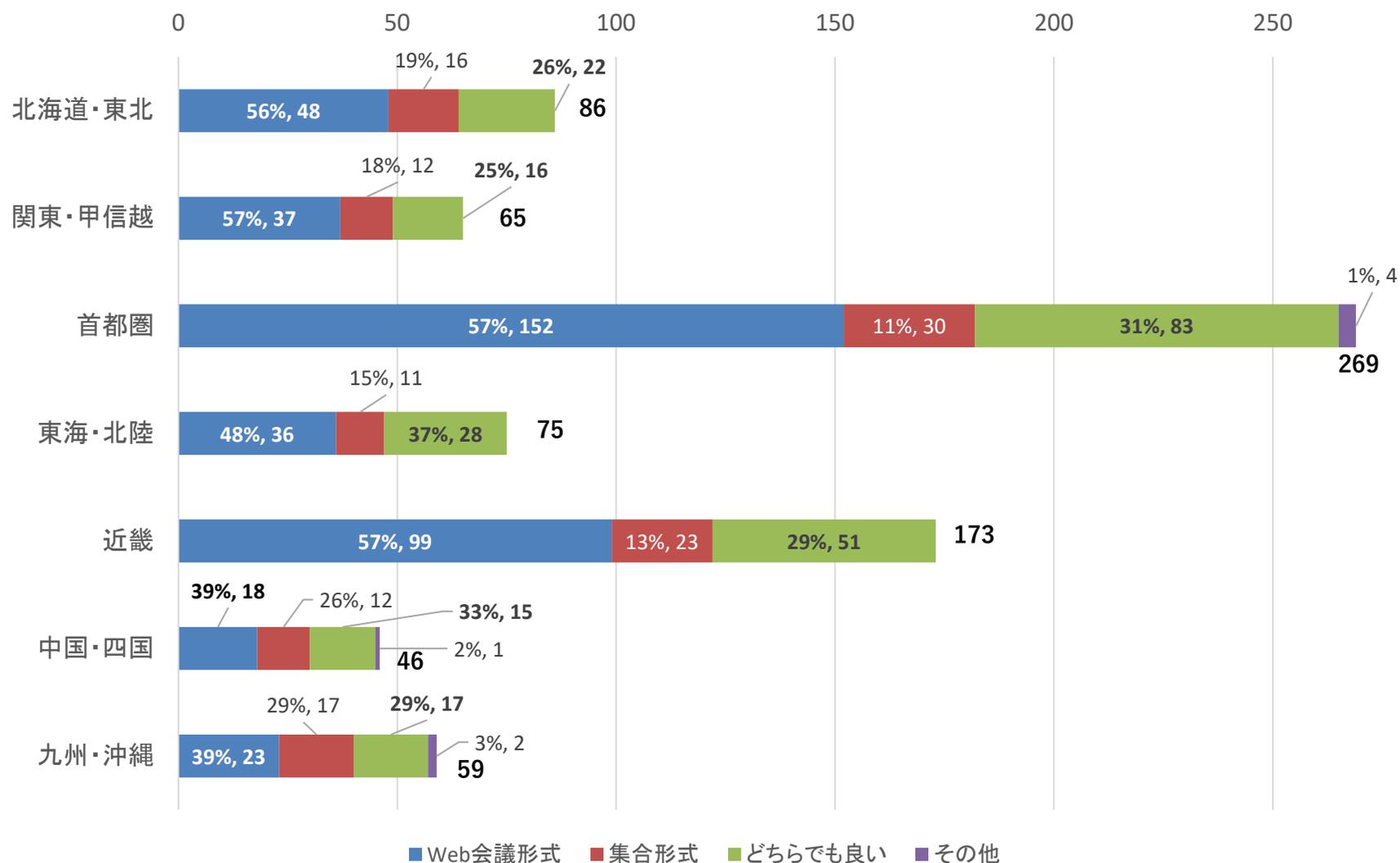
【4種目合計・割合】



- ▶ 「中国・四国」「九州・沖縄」では「集合形式」を希望する割合が他に比べてやや大きい。
- ▶ いずれの地域においても、「Web会議形式」又は「どちらでも良い」が7割～8割を占める。

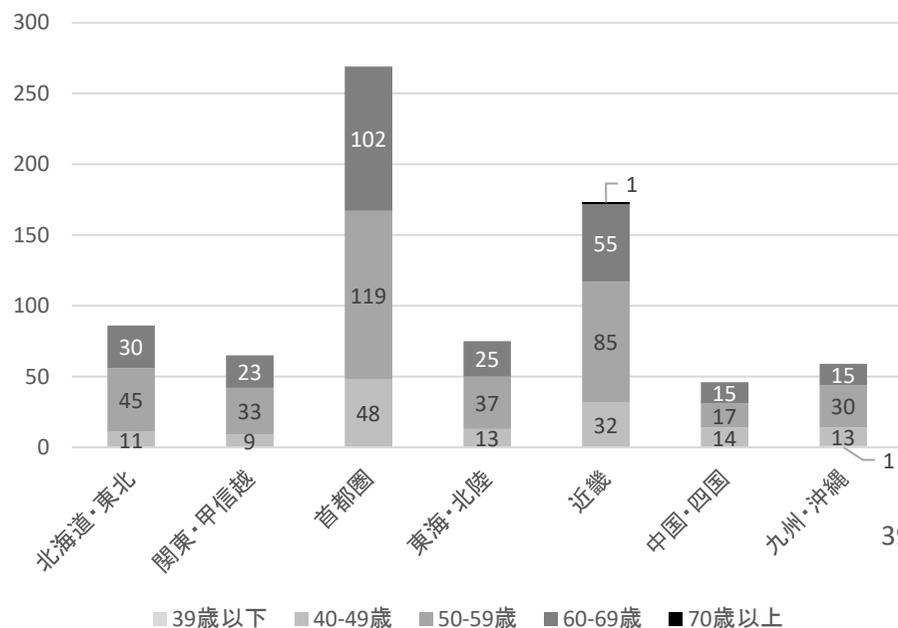
今後希望する合議審査の開催方式(令和4年度審査・地域別)

【4種目合計・人数】

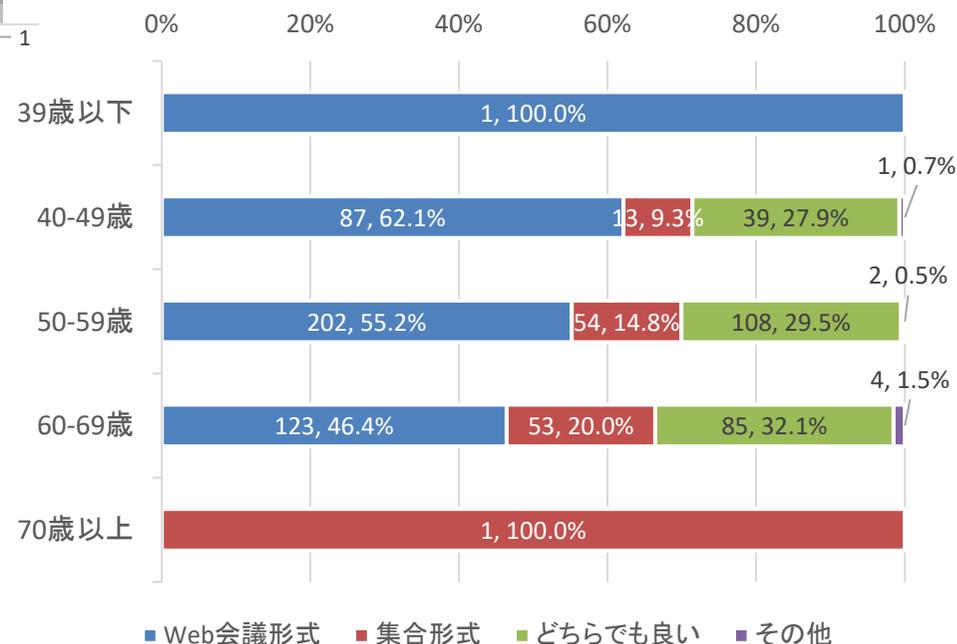


▶ いずれの地域においても、「Web会議形式」又は「どちらでも良い」が7割～8割を占める。

【参考】地域別年代別 令和4年度審査委員数(4種目合計)



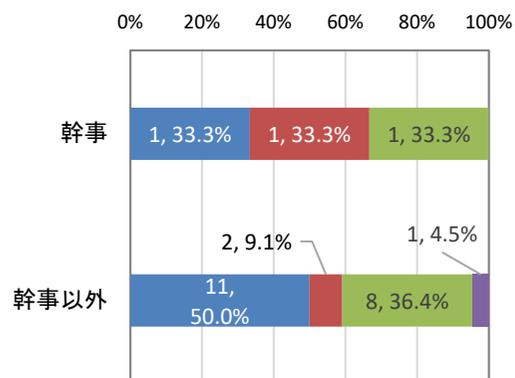
【参考】今後希望する合議審査の開催方式(令和4年度審査・年代別)



▶ 「北海道・東北」「九州・沖縄」では50代以上の割合がやや高い傾向にあるとともに、サンプル数が少ないため偏った結果が生じていると考えられる。

今後希望する合議審査の開催方式(令和4年度審査・役割別)

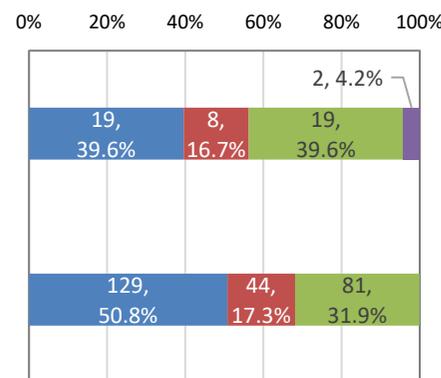
【特別推進研究】



【基盤研究(S)】



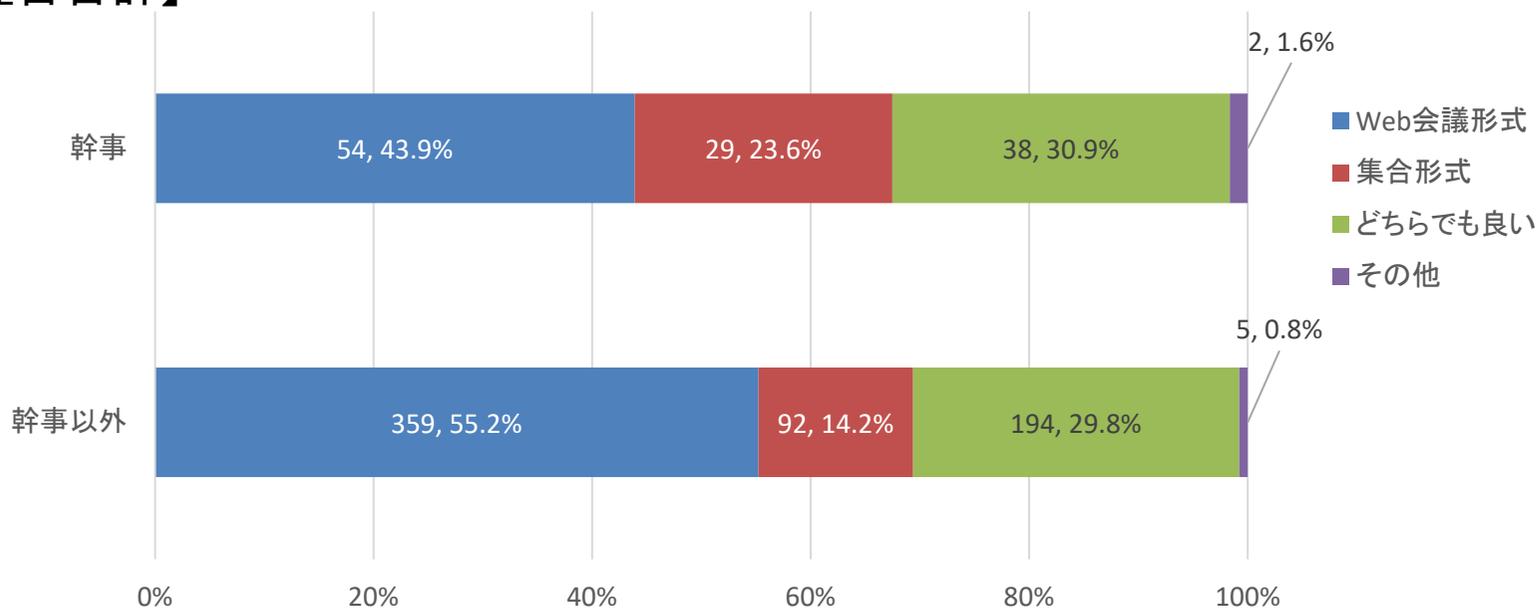
【基盤研究(A)】



【挑戦的研究】

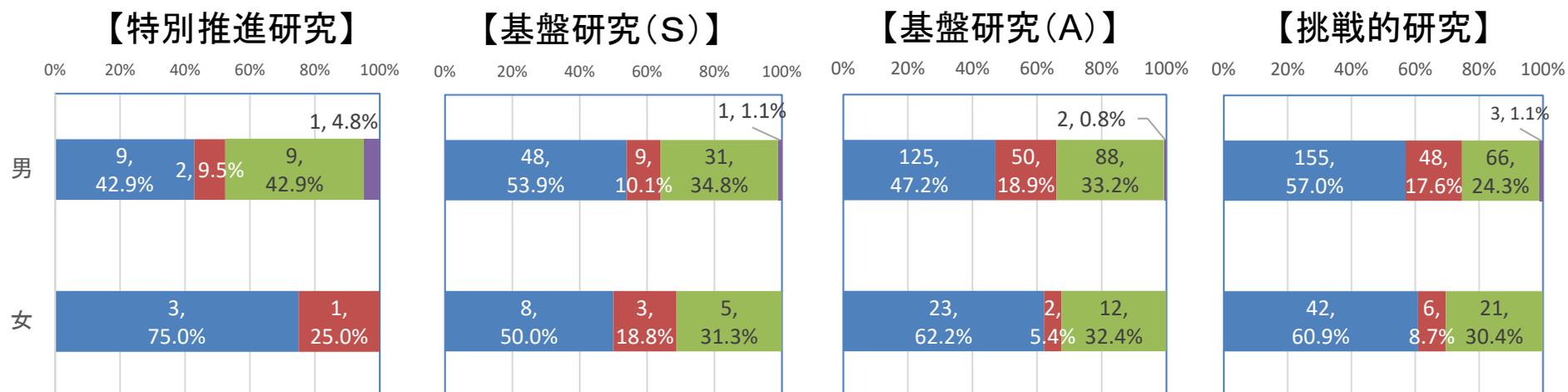


【4種目合計】



▶ 幹事については約75%、それ以外は約85%が「Web会議形式」又は「どちらでも良い」と回答。

今後希望する合議審査の開催方式(令和4年度審査・性別)



【4種目合計】



▶ 男性よりも女性の方が「Web会議形式」を希望する割合は高く、「どちらでも良い」との合計は9割にのぼる。

合議審査の開催方式に関する主なコメント

<「集合形式」のメリット>

- 集合形式の方が忌憚のない意見を聞きやすく、細かな議論も行いやすい。
- 対面の方が、ニュアンスが汲みやすく、意見の擦り合わせがしやすい。
- 委員全体の合意が得られたことの確認が容易。
- 委員間の交流の機会が得られる。

<「集合形式」のデメリット>

- スケジュール調整が困難である。
- 特定の場所に集まらなければならず、時間的に拘束される。
- 移動に労力と時間がかかる。地方在住者にとって負担が大きい。

<「Web会議形式」のメリット>

- 集合形式よりも、他の審査委員の顔色や場の雰囲気の影響される可能性が少ない。
- 集合形式よりも、論点を整理して発言している。議論に不要な発言もない。
- 審査のような明確な議論と結論を必要とする場合には、Web会議の方がポイントがはっきりして良い。
- 集合形式よりも場所の拘束がなく、利便性が高い。
- 時間的にも会議の前後の時間が取られずに助かる。
- 移動時間を考慮する必要がないため、会議日程の調整がしやすい。
- 移動時間が節約でき、体力的にも楽。

<「Web会議形式」のデメリット>

- 審査委員の意見の微妙なニュアンスが分かりにくい。
- 複数人が同時に発言した時に聞き取れない。また、発言のタイミングが難しい。
- ネット環境などによって意思疎通などに齟齬が出る可能性がある。

<その他>

- Web会議形式は、審査・意見交換内容そのものに集合形式と比べて劣るものはない。
- 議論の進め方(幹事の進行の良し悪し)によるので、どのような方式でも同じ。

参考③：諸外国のリモート審査の導入状況（聞き取り調査）

諸外国のリモート審査（バーチャルパネル）の状況①

配分機関	遠隔会議システム	審査の質の確保（オンライン審査での議論の状況、対面式との違い、審査員自身の審査の満足度等）
米国 国立科学財団NSF	Zoom (Zoomgov) または BlueJeans	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 調査に回答した NSF 職員のうち、<u>対面式のパネルが必要とした者は 17%であり、47%は対面式とする必要はないと回答。</u> ✓ オンライン化によって<u>旅費が不要となった分の経費が削減</u>された。 ✓ <u>育児・介護を行う者、障がいを持つ者、教育負担が大きく審査会出席が困難である者等はオンライン化によって出席しやすくなる可能性がある。</u>ただし、効果についてはデータ不足のため評価は困難。 ✓ パネリストが食事や休憩を通じてプログラムオフィサーや仲間のパネリストと交流できることを高く評価していることが報告されている。オンラインパネリストも対面式と同じではないものの、<u>非公式のブレイクアウトセッションに参加して、プログラムオフィサーや仲間のパネリストと交流できるようにしている。</u> <p style="text-align: center;">Source: OIG Report No. 22-6-003, Remote Versus In-Person Merit Review Panels</p>
米国 国立衛生研究所NIH	Zoom (Zoomgov)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ <u>レビューの質の絶対的評点の比較においては、パンデミック以前の対面式の会議とほぼ同様に良好</u>であった。 ✓ <u>レビュアーの大多数は Zoomによる会議のレビューの質について対面式と同等であると評価</u>している。 ✓ <u>40%をやや上回るレビュアーが対面式の会議を好み、約30%のレビュアーが Zoom を好んでいる。</u> ✓ <u>一定数の者が、Zoom による会議における注意力の維持と関与の低下に関する懸念</u>を示した。 <p style="text-align: center;">Source: CSR Report: Reviewer Surveys – Peer Review Using the Zoom Video Meeting Platform, Office of the Director July 27, 2021</p>

※令和4年1～2月にJSPSにおいて諸外国の各配分機関に聞き取り調査を行った内容等を取りまとめたもの。各配分機関の担当者個人の所感を含むものであり、各配分機関の公式な見解を表すものではない。

諸外国のリモート審査（バーチャルパネル）の状況②

配分機関	遠隔会議システム	審査の質の確保（オンライン審査での議論の状況、対面式との違い、審査員自身の審査の満足度等）
中国国家自然科学基金委员会NSFC	NSFCが自主開発した専用版ではなく、市販の一般的なソフトにNSFCの需要にあわせてオーダーメイド機能を搭載したもの	<ul style="list-style-type: none"> ✓ <u>完全なオンライン審査では、議論の状況と意思疎通の面で対面式の審査に比べて効果が劣るが、審査員（あるいは一部の審査員）が対面式で、答弁する申請者がオンラインというハイブリッド形式であれば、審査員がより勇んで質問を出したりして、逆に満足度が高まる。</u>
英国研究・イノベーション機構UKRI ※EPSRC(工学・物理科学研究会議)の審査	Zoom	<ul style="list-style-type: none"> ✓ <u>バーチャルパネルを使った公正で透明性の高い評価プロセスを継続していることに満足している。</u> ✓ <u>パネルメンバーからのフィードバックフォームでも、これまで大きな問題は浮き彫りになっていない。</u>
ドイツ研究振興協会DFG	CiscoWebex	<ul style="list-style-type: none"> ✓ <u>同じように高品質のレビューを確保しながら、迅速に行うことができたことに満足している。</u>パンデミック緩和後、オンラインレビュー会議を維持するのか、以前の形式に戻すのかはWGで検討中。 ✓ 審査員の会議形式の好み、オンライン審査の満足度等については、個人の見解、科学分野、年齢などに関連し、審査員によって見解が異なる。 ✓ <u>オンラインは非言語的なコミュニケーションが制限され、非公式な交流や交友の時間が限られている。</u>

※令和4年1～2月にJSPSにおいて諸外国の各配分機関に聞き取り調査を行った内容等を取りまとめたもの。各配分機関の担当者個人の所感を含むものであり、各配分機関の公式な見解を表すものではない。